

[畑・転換畑作部門]

3. 播種期の移動による黒大豆枝豆の出荷期間拡大

[要約]

丹波黒大豆の枝豆は、播種期を移動することにより一斉収穫の時期を2週間程度まで拡大することができる。

[担当] 作物研究室、化学研究室

[連絡先] 電話 086-955-0275

[分類] 情報

[背景・ねらい]

本県産黒大豆は、作付面積・生産量ともに日本一を誇るものの、作柄等によって価格が変動することから、安定した需要の見込める枝豆の生産拡大とブランド化による需要拡大を図る必要がある。そこで、播種期の移動による出荷期間拡大の可能性を把握する。

[成果の内容・特徴]

1. 慣行の6月下旬播種より約1か月早播きすれば、一斉収穫の時期は6日早まる(表1)。
2. 約20日遅播きすれば一斉収穫の時期は7日遅くなるが、収量が低下する(表1)。
3. この間の収穫であれば、食味は良好である(図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「岡山系統1号」に適用できる。
2. 遅播きする場合には、収量を確保するため栽植密度についてさらに検討する必要がある。
3. 一斉収穫の収穫時期は、莢厚12mm以上の収量の割合が70%の時とした。

[具体的データ]

表1 播種期による収穫期、収量

播種期 (月/日) ^z	5/27	6/9	6/25	7/16
栽植密度 (株/m ²)	2.3～4.8	2.3～4.8	2.3～4.8	3.5
収穫期 (月/日)	10/14	10/17	10/20	10/27
収量 (kg/10a) ^y	1437	1474	1818	827

^z 5/27～6/25播種は直播栽培、7/16播種は移植栽培

^y 5/27～6/25播種は栽植密度3段階の平均収量

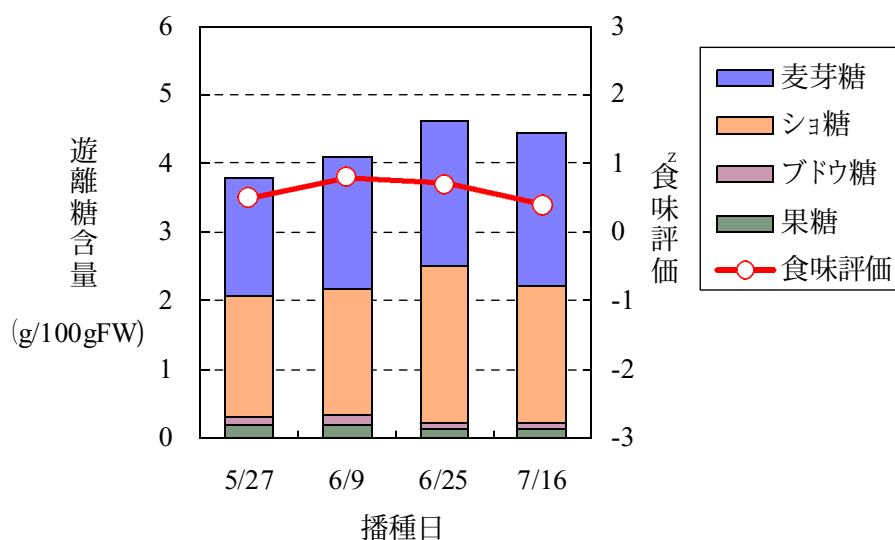


図1 播種期による糖組成、食味評価

^z -3～+3の7段階評価 (+:おいしい、-:おいしくない)

[その他]

研究課題名：「おかやま黒まめ」の枝豆生産拡大技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2008 年度

研究担当者：赤澤昌弘、高野和夫、田村尚之